

Title	和泉雅人教授略歴・ 主要著作目録
Sub Title	Biographical resume & list of publications of Professor Masato Izumi
Author	
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2015
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.109, No.2 (2015. 12) ,p.(i)- vi
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	和泉雅人教授退任記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01090002--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

和泉雅人 教授
略歴・主要著作目録

略歴

平成27年10月5日

氏 名： 和泉 雅人（いずみ まさと）

生年月日： 昭和26（1951）年2月26日

略歴

昭和55年4月 — 昭和58年3月	慶應義塾大学文学研究科独文学専攻博士課程
昭和57年4月 — 昭和59年3月	宇都宮大学非常勤講師
昭和58年4月	慶應義塾大学文学部助手
昭和60年10月 — 昭和62年9月	アーヘン工科大学哲学部博士課程
昭和61年 9月 — 昭和62年7月	アーヘン工科大学外国センター日本語講座講師
昭和63年4月 — 平成元年9月	慶應義塾大学外国語学校イタリア語学科
平成元年9月	慶應義塾大学文学部助教授
平成7年3月 — 平成8年3月	ウィーン大学哲学部訪問研究員
平成11年4月	慶應義塾大学文学部教授
平成14年4月	慶應義塾大学文学研究科委員
平成19年4月 — 平成20年1月	ケルン大学哲学部訪問研究員

主要業績 (略記)

主な編・著・訳書

- 1) J. ブムケ著 『中世の騎士文化』(平尾浩三他との共訳、白水社、814頁1995年)
- 2) R.R. ベーア著 『一角獣』(単訳、河出書房新社 286頁1995年)
- 3) J. ピーパー著 『迷宮 ―― 都市・巡礼・祝祭・洞窟・迷宮的なものの解説』
(和泉雅人監訳、工作舎、432頁1996年)
- 4) J. シェベラ著 『ベルリンのカフェ ―― 黄金の1920年代』(矢野久との共訳、
大修館書店、274頁2000年)
- 5) 『迷宮学入門』(単著、講談社(現代新書1532)、228頁2000年)
- 6) 近代科学の黎明: コペルニクス、ニュートン、そしてキルヒャー (第18回慶
應義塾図書館貴重書展示会/西脇与作との共著、丸善、2005年、205頁)
- 7) 『メディアの前衛、人間学のメディア』(編、科研費報告、322頁2005年)
- 8) 『黒澤組シンポジウムの軌跡』(山口祐子との共編 科研費報告、157頁2005年)
- 9) 『ディルタイ全集』第五巻「詩学・美学」編、(前田富士男、伊藤直樹と共同
編集、鶴殿博喜らと共訳、法政大学出版局、1758頁 2015年)

主要論文

- 1) ルートヴィヒ・ティエクのノヴェレ観 ―― ビーダーマイアーに至るノヴェレ
観の諸相のもとに(「藝文研究」45号1983年)
- 2) Ludwig Tieck in Japan 1878–1984. (「藝文研究」47号1985年)
- 3) 一角獣研究I、II、III、IV. (「藝文研究」57号1990年、60号1994年、62号
1993年、「日吉紀要」(ドイツ文学) 18号1994年)
- 4) Unicornis Japonicus In: *Sprache, Literatur und Kommunikation im kulturellen Wandel*.

- Hrsg. v. T. Hayakawa u.a., Dogakusha-Verlag, 1997.
- 5) 塔のパラディグマ——中世および近世ヨーロッパにおける「バベルの塔」表象史への基礎的考察（『日吉紀要（ドイツ文学）28号1999年）
 - 6) ピーター・ブリューゲル（父）：ウィーン美術史館蔵『バベルの塔』（1563年）における表象綜合（1）（2）（『藝文研究』76号1999年、「日吉紀要」（ドイツ文学）30号2000年）
 - 7) 迷宮表象原理——迷宮表象の意義と淵源についての考察（『藝文研究』78号2000年）
 - 8) Zur Entstehung der *Literaturgeschichte der deutschen Stämme und Landschaften* von Josef Nadler. In: *Zwischenzeiten – Zwischenwelten*. Hrsg. von J. Fürnkäs, M. Izumi und R. Schnell, Peter Lang Verlag, 2001
 - 9) 麒麟考——東アジアにおける一角獣表象の基礎的研究（一）（二）（三）（『藝文研究』81号2001年、「日吉紀要（ドイツ文学）」34号2002年、「藝文研究」82号2002年）
 - 10) Unicornis asianus und der geheiligte Eros. In: *Zeitschrift für Literaturwissenschaft und Linguistik (Lili). Eine Zeitschrift der Universität Hochschule Siegen*. Hrsg.v. R.Schnell u.a., Jg. 34, H.135, 2004
 - 11) Chilin und das japanische Altertum. In: *Neue Beiträge zur Germanistik. Kulturwissenschaft als Provokation der Literaturwissenschaft. Literatur – Geschichte – Genealogie*. Hrsg.von JGG, Bd.3, H.3, 2004)
 - 12) Bauhaus als Medium zur Modernisierung: Eine Skizze der repräsentativen Rezeption und Verarbeitung der Bauhaus-Idee in Japan Anfang des 20. Jahrhunderts. In: *Medienanthropologie und Medienavantgarde - Ortsbestimmungen und Grenzüberschreitungen*. Hrsg. v. R. Schnell, M. Izumi u.a. transcript-Verlag, 2005.
 - 13) Zwischen Dogma und Neugierde. Zu Japanischem in China Illustrata (1667) von Athanasius Kircher. In: *Minds of the past : representations of mentality in literary and historical documents of Japan and Europe*. edited by T.Matsuda, K.Yoshitake, M.Izumi and M.Sato. Keio UP, 2005,.
 - 14) 塔と迷宮（『近代的心性における学知と想像力』松田隆美、和泉雅人、松村友視編 慶應義塾大学出版会 2007年）
 - 15) シュピッツヴェーク・スタイル——その「自我」像（『藝文研究』94号2008年）

- 16) Scalalogie (階段学) へのオマージュ (『日吉紀要 (ドイツ文学) 45号2009年)
- 17) Conrad Gessner: 『萬有書誌』 及び慶應義塾図書館所蔵総手彩色本『動物誌』について (『慶應義塾図書館の蔵書』 佐藤道生編 Keio UP 2009年)
- 18) C.D. フリードリヒにおける「窓」(1) (2) (『藝文研究』 98号2010年、100号2011年)
- 19) 第14回ウィーン・ゼセッション展 (1902年) を読む (1) (『研究年報』 30号2013年)
- 20) ヴァッケンローダー 『芸術を愛する一修道僧の真情の披瀝』 についての若干の考察 (『藝文研究』 105-2号2013年)

シンポジウム

- 1) Shinkenichikugakuin-Schule und ihr avantgardistisches Experiment in den 30er Jahren (慶應義塾大学・ジークン大学共同研究シンポジウム 2004年6月11日)
- 2) 黒澤組に聞く ― 黒澤明の世界 全二回 (慶應義塾大学 2003年6月)
- 3) Symposium für Medienumbrüche „Akira Kurosawa und seine Zeit“. (Universität Hochschule Siegen 2003年11月28日)